

令和5年度 第1回 知立市環境審議会 議事概要

1 日時 令和5年7月6日(木) 午前10時から午前11時50分

2 場所 知立市市役所 第10会議室

3 出席者及び欠席者

(1)出席者 大里健二 会長、山本裕嗣 副会長、上野裕則 委員、小川雄一 委員、
日比野佐知子 委員、野畑悦雄 委員、永田久枝 委員、甲斐春美 委員、
棚橋勝樹 委員、足立達信 委員

(2)欠席者 なし

(3)事務局 林郁夫 市長、奥村康明 環境課長
宮本恵美 環境課長補佐兼ゼロカーボン推進係長
金山弘一 ごみ減量係長、水谷亮介 環境課主査
森田紘圭・近藤美沙希(共に大日本ダイヤコンサルタント)

4 議事

(1) 市長あいさつ

(2) 役員選任

環境審議会会長には大里委員が指名され、副会長には山本委員が指名された。

(3) 諮問

林郁夫市長より、第2次知立市環境基本計画の中間見直しに関し、知立市環境条例第20条第2項の規定に基づき、環境審議会に諮問をされた。

(4) 協議事項

第2次知立市環境基本計画の中間見直しについて

【報告事項に関する主な意見・質疑応答】

①第2次知立市環境基本計画についての意見

委員 本計画におけるSDGsの考え方や知立市のSDGsの取組との位置付けについて伺いたい。

事務局 第2次知立市環境基本計画策定時はコラムでの記載に留まっているため、中間見直しにあたっては、ゴールと施策の対応やSDGs未来都市計画などの関連計画との連携を図っていきたいと考えている。

委員 施策体系について、基本目標5「5-3 多主体の連携・協働を図る」の多主体はどのような内容を指しているのか。

事務局 市民や事業者、環境活動団体などを「多主体」と表現し、このような関係者が協働して環境問題に取り組む体制や仕組みづくりを目標として掲げている。

委員 現在、クリーンサンデーは年に1回の実施となっているが、実施回数を増やすことは考えているか。またクリーンサンデーの実施背景や目的を市職員が把握していない状況がみられたので、改善してほしい。

事務局 これまでクリーンサンデーの日程は6月の第1日曜日としていたが、知立市環境美化推進条例では市長が定める日とされていることから、今年度は6月の第4日曜日に開催するなど、開催日程に自由度を設けて市民の参加を促している。運営等の観点から実施回数を増やすまでには至っていないが、できることから実施していきたいと考えている。

市職員の認識については教育や周知を徹底し、改善に努める。

②中間見直しにあたっての意見

委員 令和5年度実施のアンケート調査の実施方法について、WEB回答のみとなっていたが、高齢者やネット環境が整っていない方にも回答が可能なように紙での回答も今後は受け付けてはどうか。

事務局 市の全体方針として、従来の郵送形式からWEBでの回答に切り替えていくという方針に基づき実施している。今後の実施方法への参考としたい。

③知立市の環境に関する意見

委員 孫を連れてクリーンサンデーへ参加したり、山屋敷の処分場に一緒に行って指導を受けたりと、子どもの頃から環境やごみ問題について学ぶことは非常に有益であると感じている。クリーンセンターの見学とあわせて、処分場も見学の機会があると適正処理が浸透するのではないかと。

事業者の取組については、市や市長からの表彰などがあれば、表彰状を事業所に飾ることもできるし、従業員の意識も変わると思う。

委員 豊田市ではごみ処理場の見学をしている。今から30年前の自分の子どもたちの頃は環境に関する施設見学はなかったが、現在の取組はどうか。

事務局 現在は小学4年生を対象に施設見学などの環境教育を実施している。知立小学校は過去に山屋敷の処分場にも見学に来たと聞いているが、コロナ禍で学校の対応も変わっていると思う。

委員 民生委員をやっていた時に山屋敷の処分場に見学に行ったことがある。事業者もぜひ見学する機会があるとよいと思う。また生涯学習の観点から老人会にも普及するとよい。

委員 我が家では可燃ごみやプラスチックごみの減量に努めている。家庭での取組を推進するためには、ごみの減量がいかにお得な事かを感じてもらうのが重要ではないか。ごみのかさを減らせばごみ袋の節約にもなるし、スーパーによってはまとまった量のペットボトルを持参するとポイント還元さ

れる所もある。ごみの減量や省エネなど先進的な取組をされている個人の取組を広報等で紹介するのもよいと思う。

委員 節電や発電の状況も「見える化」すると意識の変化がある。

委員 家庭用剪定枝粉碎機の貸出を開始されているが、機械が大きいので搬入出のための軽トラの貸出をセットで行うとよいのではないか。

事務局 家庭で出た剪定枝を可燃ごみとして処理するのではなく、粉碎して肥料にするなど資源として活用していただくため、破碎機を購入し、貸出を開始した。運用に関する貴重なご意見として今後の参考とさせていただきます。

委員 市民や企業、市などそれぞれの関係者主体として取組むことが明確になると理解が進むのではないか。

またアンケート調査について、回答者はある程度環境に関心のある方や時間に余裕がある方だと思う。財源も限られているため、まずは環境問題に関心の高い方向けに取組を推進して、全体の機運の底上げを図るとよいのではないか。例えば、環境活動団体に所属しての活動には消極的な方でも、単発で美化活動に参加出来たりすると参加者も増えるのではないか。その際にはできるだけ費用がかからないように実施することが肝要であり、既存の広報のツールである知立市のLINEを使用するのも有効であると思う。

環境に関する情報について、自ら情報を取りに行くことは中々現実的ではないが、子育て層は子供が持ち帰ってくる情報は目に入ることも多い。学校と連携してチラシを配布することは効果的な情報発信の機会でもあるし、費用の削減にもなるので連携を検討してはどうか。

委員 事業所の取組として、海外事例にならった暮らし方が浸透するようになるとよい。事業所側の変革が先か、消費者のニーズが先かにもよるが、パック売りから量り売りが浸透するとよい。多様性の観点からも世帯人数にあわせた買い物ができると普及していくのではないか。

(午前 11 時 50 分終了)